

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年9月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

「夢つくし」の収穫は9月6日頃から開始しました。

収穫最盛期は平年並みの9月11～20日頃の見込みです。

穂数は平年並みですが、出穂後の長雨による内穎褐変病や紋枯病が多く、日照不足により登熟歩合が低下し、収量は平年よりやや少ない見込みです。

「元気つくし」の収穫は9月23日～9月30日頃、「ヒノヒカリ」の収穫は10月5～10日頃の見込みです。

穂数は平年並みですが、出穂後の日照不足による登熟歩合低下が懸念されます。トビイロウンカの発生は、平年より少ないです。

収穫時期は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して決定し、刈り遅れないよう留意しましょう。

熟期が「元気つくし」以降の品種は、間断かん水を実施し早期落水を避けましょう。

台風通過時は、深水管理としましょう。

成熟期が近いほ場で倒伏した場合は、台風通過後早急に落水し、穂発芽を防ぎましょう。

◇大豆◇

8月の大雨による浸冠水で枯死し、収穫皆無のほ場も発生しています。

長雨による湿害の発生で生育量は少なく、着莢数も平年に比べて少ないです。

降雨により雑草の発生も多くなり、帰化アサガオ類などの難防除雑草が多発したほ場も見られます。

7月中旬播種の生育は、現在、莢伸長期です。

7月中下旬播種の開花期は、8月23～9月4日頃で平年より4～5日程度遅いです。

ハスモンヨトウの食害は平年に比べ少ないですが、一部地域では増加しています。

暗渠の栓を開け、排水溝の整備に努め降雨後の表面排水を徹底しましょう。

紫斑病の対策を徹底しましょう。

ハスモンヨトウとカメムシ類は、発生動向を把握して適期に対策を実施しましょう。

雑草の発生が多いほ場では、収穫までに抜き取りを行いましょう。

◇イチゴ◇

苗は、8月の大雨・日照不足の影響による生育遅れや根傷みでやや小さい傾向です。

早期作型は、概ね予定どおりの作型で花芽分化も順調に進んでいますが、一部、苗質の劣るものは作型を遅らせて対応しています。

普通作型の苗は、8月後半から苗質も徐々に良くなっており、花芽分化は平年並みの見込みです。

定植は、中山間地域で9月上旬から開始、平坦地は9月中旬から順次開始の予定です。

定植準備は、8月以降の降雨の影響で産地によっては一部遅れがでています。

8月の大雨後に炭疽病等の発生が見られ、一部の産地では苗不足も懸念されています。

普通作型の定植が進んだ段階で調整を図る予定です。

その他の病害虫では、ハダニ類、アブラムシ類、ハスモンヨトウの発生が見られます。

花芽分化確認後の計画的な定植を徹底しますが、ほ場が過湿の場合は無理な畝立てや定植を行わないようにしましょう。

病害虫の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

巨峰の収穫がほぼ終了しました。

梅雨明けが早かったことから、全般に糖度が高く、着色も良好です。

減酸も早く、収穫時期が前進化しました。

8月中旬以降の大雨で、裂果及び脱粒が多発しました。

現時点の出荷量は前年より多いです。

収穫後は、べと病、トラカミキリ等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

無加温ハウスは収穫中～終盤、露地では収穫ピークを過ぎています。

出荷量は、梅雨明けが早く前進出荷により前年より多いです。

8月中旬以降の長雨・日照不足で、疫病や腐敗果等が発生し、出荷量が一時減少しましたが、9月以降はやや回復しています。

今後、気温低下に伴うショウジョウバエの発生が懸念されます。

腐敗、カビ、裂果に注意し、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図り

ましよう。

ショウジョウバエの誘発を防ぐため過熟果や腐敗果は徹底して除去しましょう。収穫終了後の施設栽培では、過乾燥による根傷み防止のため灌水を徹底しましょう。

◇電照ギク◇

夏秋ギクの彼岸出荷（9月中旬）は、一部株枯れが発生していますが、奇形花等の生育障害は少ないです。

秋ギクの年末出荷作型では、8月の大雨により親株ほ場が浸水し、一部で採穂数の不足や定植作業の遅れ等の影響が見られます。

アザミウマ類やハダニ類の発生が多く、夜蛾類も一部で発生しています。

白さび病を本圃に持ち込まないよう親株への対策を徹底しましょう。

ウイルス伝染を防ぐため、本ぼ・親株ほ場を含めてアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

6～8月は出荷量、販売単価は前年より増加しました。

秋出荷作型（10～11月出荷）の生育は、久留米地域で8月の大雨による浸水で立枯れが発生しました。

県内全域で長雨による日照不足からボリュームも不足する傾向です。

チップバーンの発生も多いです。

無駄芽や不要な側枝は早めにかぎとり、主茎の充実に努めましょう。

チップバーンが発生したほ場では、特に灰色かび病の発生に注意しましょう。

高温期の斑点病は、退緑病斑となり発見が遅れる場合が多いです。

早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

◇鶏◇

8月の豚枝肉価格は、底堅い内食需要と通関遅れが恒常化した不安定な輸入品の入荷状況で、ほぼ例年並み（過去5年平均比）の価格です。

鶏卵価格は、暑熱による需要減退から前月より低下しましたが、在庫不足の影響が続き、供給過多だった前年と比べると140%、過去5年平均比でも122%と高値です。

残暑や雨続きで湿度が高いため、引き続き送風等の暑熱対策は継続しましょう。

台風など天候状況を注視し、飼料作物の収量や品質確保のために、調整法や収穫時期の変更など臨機応変な対応を行いましょう。

また、病害虫の発生状況を確認して対策を徹底しましょう。